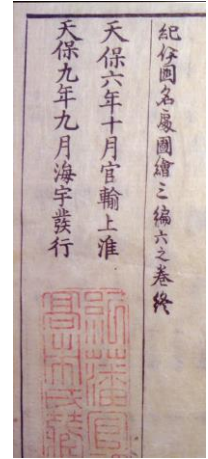
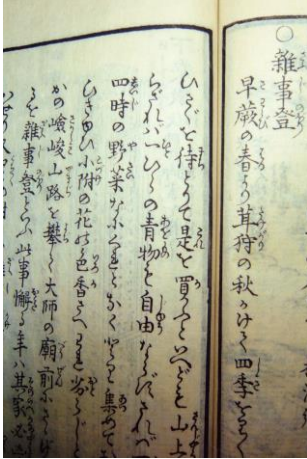


## 黒河(くろこ)の会便り 第 13 号

### ◆雑事登(ぞうじのぼり)

天保 6 年江戸後期に発行された「紀伊国名所圖會」三編四之卷上高野山の中に「雑事登」という項がある。



「早蕨(さわらび)の春より茸狩りの秋にかけて、四季おりおりの候物(こうぶつ)八山童の来たりひさぐを待とりて是を買うといえども、山上には一区の畝田(ほでん)もあらざれば、四方の麓の村々より四時の野菜なにくれとなくとり集めて、おのがさまざまに苞(つと)にひきゆい、小附(こずけ)花の色香さえわれ劣らじと、暑寒をいとわずかの嶮峻(さかしき)山路を攀(よじ)て、大師の廟前にささげ、鼎依の寺院に贈るを雑事登といふ」

とあり。また

「口々の村には「雑事懸け」と言う物を造って、若菜や花を軒にくくり置き、それを供米を運ぶ馬男や薪を運ぶ山人は荷に添え上る事一日も絶えなかった」

と、当時の模様が記されている。



荷を運ぶ牛につけた鞍 ↑



荷に花を添えている ↑

このようなことは全て大師千載の威霊によるもの、里人が法徳になつく事がこのようであるので、寺々の庫裡には常に青物が山をなして、賓客をもてなすに足りている。寺の僧侶は里人の労を思いやり、この施物を珍重し、菜の葉が赤く萎びたものであっても無下に捨てるには忍びないと、糞(あつもの・熱い吸い物)にし、鹿菜(しかざい)と名付け… とあります。

黒河便り 11 号では「はたごんぼ奉納」を紹介しましたが、この春には地元の野菜を持って黒河道を上り奥ノ院に奉納する計画を立てています。久保小学校の桜が咲く頃(4月18日あたり?)を予定しています。主催は高野七口再生保存会、伊都振興局、市教育委員会の協賛です。

この雑事登りの青物・野菜類は地元で用意する予定です。皆様方のご協力をお願いいたします。詳細は次号でお知らせ致します。



↑ 昨秋「はたごんぼ奉納」の様子